

第3回検討委員会

令和7年9月8日

資料Ⅱ

県立高校の将来ビジョン検討委員会

説明資料

鹿児島県教育庁高校教育課

説明資料

検討依頼事項

■ 検討依頼事項

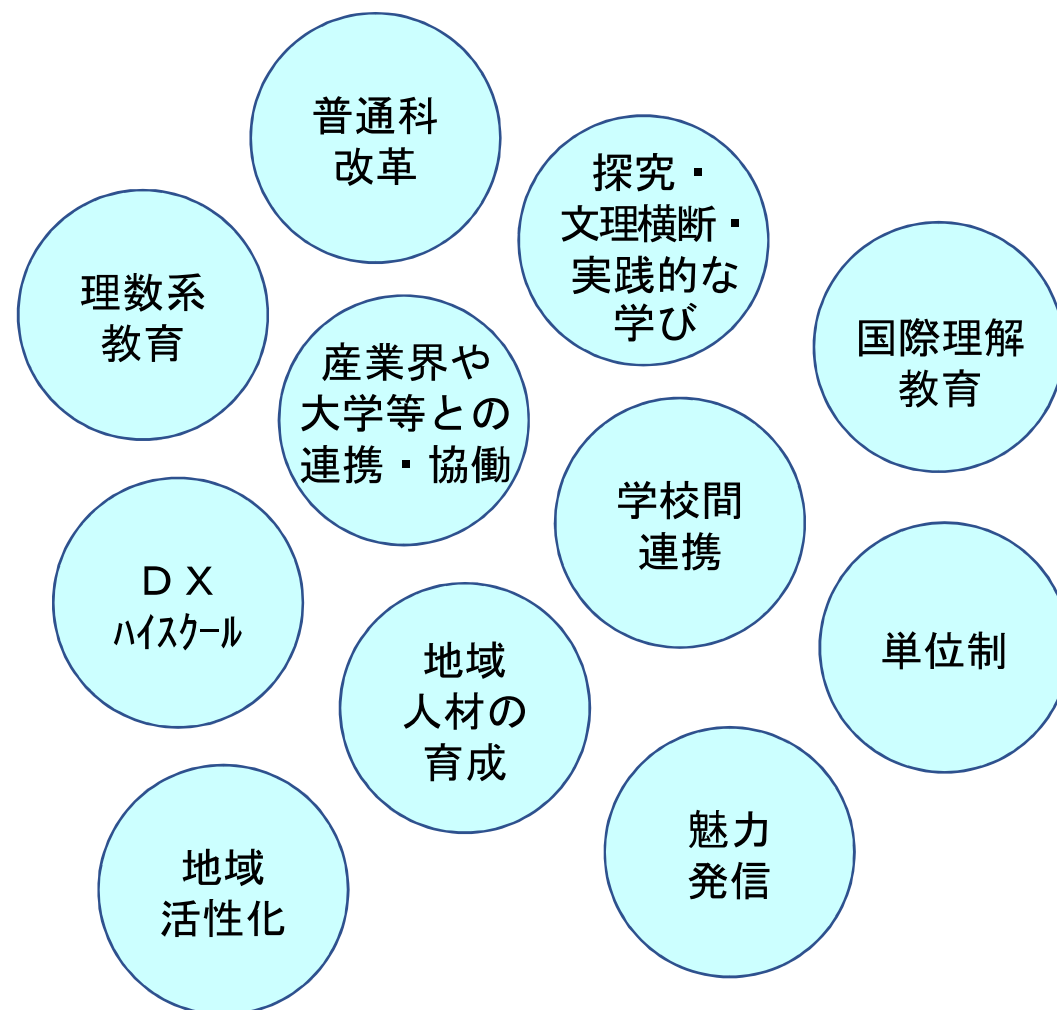
- 1 生徒の多様な学びのニーズへの対応【第2回・第3回】
 - (1) 不登校生徒の学習機会の確保
 - ・ 全日制・定時制・通信制，学びの多様化学校
 - (2) 全ての生徒の学びの充実
 - ・ 探究・文理横断・実践的な学び
 - ・ 産業界等と専門高校の連携・協働
 - ・ 単位制
 - (3) その他
- 2 生徒数減少への対応【第4回・第5回】
 - (1) 少子化が加速する地域における高校教育の在り方
 - ・ 学校の配置，学校の規模，通学区域
 - ・ 小規模校の教育条件の改善（遠隔授業など）
 - (2) 生徒が行きたいと思える学校づくり，特色化・魅力化
 - (3) その他（通学支援，寮）

■ 本日、検討していただきたいテーマ

◎ 生徒の多様な学びのニーズへの対応

『全ての生徒の学びの充実』

- (1) 普通科の学びの充実
- (2) 専門学科の学びの充実
- (3) 総合学科の学びの充実
- (4) その他



高等学校教育の在り方ワーキンググループ 審議まとめ（令和7年2月） 概要

参考資料 1

I. これからの高等学校の在り方に係る基本的な考え方

高校教育の実態が地域・学校により非常に多様な状況にあるため、質の確保・向上に向けて、「多様性への対応」と「共通性の確保」を併せて進める必要

■多様性への対応

- 地理的状況や各学校・課程・学科の枠にかかわらず、いずれの高校においても多様な学習ニーズに対応し、潜在的なニーズに応える柔軟で質の高い学びを実現

■共通性の確保

- 「自己を理解し、自己決定・自己調整ができる力」の育成
- 「自ら問いを立て、多様な他者と協働しつつ、その間に対する自分なりの答えを導き出し、行動することのできる力」の育成
- 「自己の在り方生き方を考え、当事者として社会に主体的に参画する力」の育成
- 義務教育において修得すべき資質・能力の確実な育成など、「知・徳・体のバランスのとれた土台」の形成

取り組む
ことが
特に重要

II. 各論点に対する現状・課題認識と具体的方策

主な手段の
凡 例 ○：通知等 □：予算事業 ◇：調査 ☆：その他取組

1 少子化が加速する地域における 高等学校教育の在り方

- 少子化の影響により多くの地域で統廃合が進行。今後も15歳人口の減少は一層加速。小規模校の教育条件の改善が必要。
- 生徒が行きたいと思える学校づくり、特色化・魅力化が必要。

小規模校の教育条件の改善に向けて

- 教科・科目充実型の遠隔授業、全日制・定時制課程における通信教育の活用、学校間連携等の推進による学びの機会の充実に関する実証研究の実施
- 配信センターの体制・環境整備、学校間連携等の促進
- ◇ スクール・ミッション、スクール・ポリシー等を踏まえた学校教育活動の実施・改善、学校の特色化・魅力化
- ☆ 都道府県と市町村の連携・協力による学校運営
- 地域や学校を越えた生徒同士の学びのネットワークの構築
- コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入等による学校と地域社会の連携・協働の推進
- 学校における働き方改革の推進、コーディネーター等の配置支援

2 全日制・定時制・通信制の望ましい在り方

- 不登校児童生徒数が義務教育段階を中心に増大。高校段階では通信制の生徒数が近年急増。
- 全日制・定時制・通信制いずれの課程にあっても、柔軟で質の高い学びを保障していくことが必要。

生徒の多様な学習ニーズに応える 柔軟で質の高い学びの実現に向けて

不登校生徒の学習機会の確保

- 自宅等からの同時双方向型の遠隔授業や通信教育の活用に関する実証研究、モデル事例の創出
- ☆ 履修・修得の柔軟な認定の促進
- 学びの多様化学校や校内教育支援センターの設置促進
- 不登校経験が不利益に扱われない高校入学者選抜 等
- 定時制・通信制課程における優良事例の創出等
- ◇ 広域通信制の設置認可等に関する状況の把握等
- 通信制課程に係る情報公表や制度等に係る情報発信
- ◇ 不登校生徒に対する継続的な実態調査
- SC・SSWの配置充実、心理・福祉分野に強みや専門性を有する教師の育成等
- 公立通信制高校等の機能強化等
- 高校における特別支援教育の充実に向けた体制整備
- 外国につながる生徒の受入れに向けた体制整備

3 社会に開かれた教育課程、 探究・文理横断・実践的な学びの推進

- 高校生の3割が家や塾で学習を「しない」と回答。
- 授業の満足度・理解度は学年が上がるとともに低下。
- 多くの高校で文理のコース分けがなされ、特定の教科を十分に学習しない傾向。

全ての生徒の学びの充実にに向けて

- 普通科改革の促進、コーディネーターの配置支援を通じた探究・文理横断・実践的な学びの推進
- グローバル人材育成に資する拠点校の整備、留学をはじめ国際交流の促進、理数系教育の更なる充実
- 産業界等と専門高校の連携・協働の強化、専門高校を拠点とした地域人材の育成・地方創生の支援、専門高校の魅力の発信
- DXハイスクール事業の更なる推進
- ☆ 学習指導要領の理解や着実な実施、定着
- ☆ 学校における働き方改革の推進、教職員の配置を含む高校の指導体制の充実
- 教師の資質・能力の向上のためのオンライン研修コンテンツの開発支援、探究型の研修の開発・普及
- ☆ 大学入学者選抜を含む高大接続改革の推進
- ☆ 教育費の負担軽減

説明資料

1 「各課程・各学科」の現状等

■ 本県公立高校「全日制・定時制・通信制」の現状（令和7年4月）

		普通科	専門学科								総合学科	計
			農業科	工業科	商業科	水産科	家庭科	看護科	福祉科	その他		
全日制	学校数	40	10	13	22	1	7	2	3	11	5	【68】
	学級数	140	19	45	48	3	13	2	3	16	8	297
	在籍者数	13,481	1,061	4,220	4,246	289	1,172	56	144	1,389	527	26,585
定時制	学校数	1			2							【2】
	学級数	1			2							3
	在籍者数	75			88							163
計	学校数	41	10	13	24	1	7	2	3	11	5	【68】
	学級数	141	19	45	50	3	13	2	3	16	8	300
	在籍者数	13,556	1,061	4,220	4,334	289	1,172	56	144	1,389	527	26,748

※学校数：複数の学科を設置している場合、それぞれの学科に計上

※学級数：令和7年度の第1学年の学級数

※「その他」には、理数科、文理科、文理科学科、体育科、情報科学科、音楽科、美術科、スポーツ健康科、生活情報科を含む。

		普通科	専門学科								総合学科	計
			農業科	工業科	商業科	水産科	家庭科	看護科	福祉科	その他		
通信制	学校数	1						1				【1】
	在籍者数	2,259						1				2,260

■ 本県公立高校「普通科」及び「専門学科（普通系その他）」の現状（令和7年4月）

No	学校名 * 市立	普通科			募集定員 1年・2年・3年	在籍者数			専門学科 普通系その他	募集定員 1年・2年・3年	在籍者数		
		文系	理系	その他		1年	2年	3年			1年	2年	3年
1	鶴丸	○	○		320	322	318	314					
2	甲南	○	○		320	320	318	315					
3	鹿児島中央	○	○		320	323	321	309					
4	錦江湾	○	○	教養	160	94	133	109	理数	80	50	48	46
5	武岡台		理数	人文、外国語	240	241	234	230	情報科学	80	77	78	79
6	開陽				180	79	105	93					
一	明桜館								文理科学	120	73	66	99
7	松陽	文科	理科	体育、書道、英語	240	215	233	236	音楽	40	34	34	31
8	鹿児島東			文理、総合、教養	80	60	65	34	美術	40	40	39	36
9	鹿児島南	○	○		160	160	158	155	体育	40	38	33	39
10	* 鹿児島玉龍	○	○		240	240	235	225					
一	* 鹿児島商業								アスリートスポーツ	40・40・一	39	40	一
11	伊集院	○	○		240	195	201	160					
12	串木野	内部特進		一般	80	35	56	33					
13	指宿	○	○	文総、理総	120	71	73	73					
14	頴娃				40	15	15	25					
15	加世田	○	○		120	79	80	79					
16	川辺	○	○	総合	80	58	32	30					
17	川内	○	○		280	275	274	273					
18	薩摩中央	○	○		40	9	15	17					
19	出水	○	○		120・120・160	111	87	90					
20	大口	○	○		80	35	29	46					
21	蒲生			普通、総合	80	55	40	37					
22	加治木	○	○		320	319	319	301					
23	国分	○	○		280	280	253	199	理数	40	40	39	29
24	福山				40	11	13	7					
一	* 国分中央								スポーツ健康	40	38	37	36
25	曾於				40	32	22	21	文理	40	16	6	10
26	志布志	○	○	英語系	120	71	67	101					
27	楠隼	○	○		90	57	51	42					
28	鹿屋	○	○		240	239	238	189					
29	垂水			ビジネス、進学	40	7	9	8					
30	* 鹿屋女子	○	○		40	38	35	40					
31	種子島	○	○	総合（生活、教養）	80	44	44	46					
32	種子島中央	○	○	教養	40・40・80	25	14	39					
				ミライデザイン	40・40・一	14	17	一					
33	屋久島	○	○	環境	80	33	35	37					
34	大島	○	○		240・240・280	214	219	202					
35	大島北				40	26	27	26					
36	古仁屋			進学、情報ビジネス	80	26	37	32					
37	喜界				40	16	19	28					
38	徳之島	○	○		80	40	52	38					
39	沖永良部	○	○		80	34	53	47					
40	与論	○	○	総合	80	45	40	46					
(定時)	(開陽)				40	25	38	12					
「普通科」41校：13,556人					「専門学科（普通系その他）」9校：1,270人								

本県公立高校「専門学科」の現状（令和7年4月）

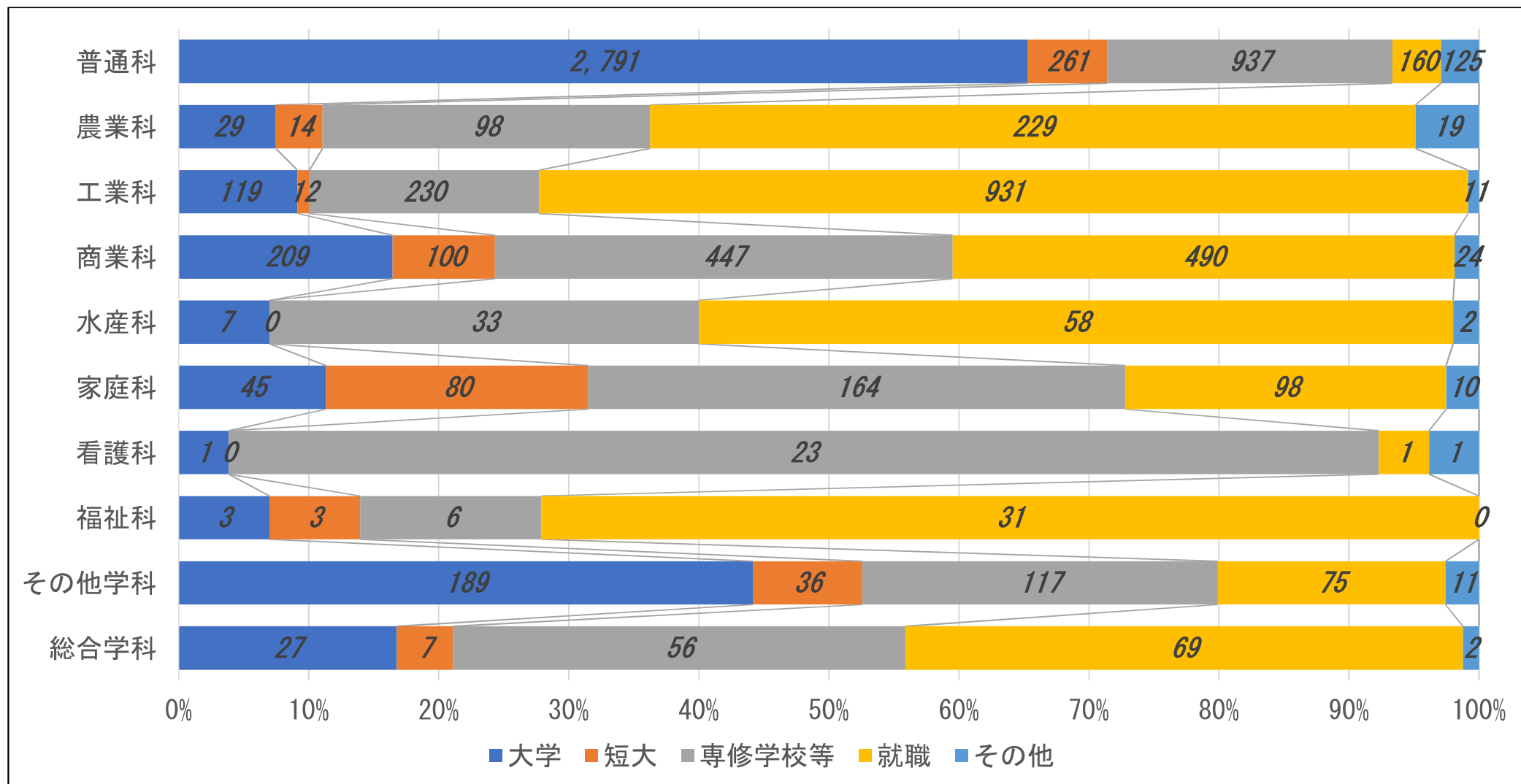
	学校名 * 市立	農業				工業				商業					家庭				水産・看護・福祉				その他			
		募集定員		在籍者数		募集定員		在籍者数		募集定員		在籍者数			募集定員		在籍者数		募集定員		在籍者数		募集定員		在籍者数	
		1年・2年・3年	1年	2年	3年	1年・2年・3年	1年	2年	3年	1年・2年・3年	1年	2年	3年	4年	1年・2年・3年	1年	2年	3年	1年・2年・3年	1年	2年	3年	1年・2年・3年	1年	2年	3年
1	開陽																		福祉40	36	28	23				
2	明桜館									80	73	67	76													
3	鹿児島工業					360	359	356	303																	
4	鹿児島南									120	120	119	119													
5	吹上					80	46	46	56	40	18	22	26													
6	市来農芸	120	65	43	40																					
7	* 鹿児島商業									240・240・280	240	231	118													
8	* 鹿児島女子									160	102	74	100		160	150	135	137								
9	山川	40	6	8	10																		生活情報40	15	7	11
10	頤娃					40	40	33	30																	
11	鹿児島水産																		水産120	93	98	98				
12	加世田常潤	40	14	19	12														生活福祉40	6	3	8				
13	薩南工業					120	55	61	56						40	25	31	25								
14	指宿商業									200	137	174	148													
15	川内商工					240	238	184	196	80	80	79	61													
16	川薩清修館									40	14	14	6													
17	薩摩中央	80	52	57	28														福祉40	9	19	12				
18	鶴翔	80	38	27	29																					
19	野田女子														80	35	33	34	看護40	9	10	13				
20	出水工業					120	76	61	75																	
21	出水商業									160	125	144	152													
22	伊佐農林	40	7	23	9																		生活情報40	30	34	22
23	霧島					40	11	10	18																	
24	浦生									40	29	24	28													
25	加治木工業					280	223	209	258																	
26	隼人工業					160	126	152	133																	
27	福山									40	13	20	19													
28	国分中央	40	39	39	27					120	94	116	108		80	80	76	77								
29	曾於	40	21	19	23	40	37	25	38	40	40	32	38													
30	串良商業									120	67	79	67													
31	鹿屋農業	240	115	117	140																					
32	鹿屋工業					240	228	161	191																	
33	垂水														40	20	15	16								
34	南大隅									80	22	27	38													
35	鹿屋女子									80	58	65	74		80	73	65	62								
36	種子島	40	18	7	9	40	17	14	26																	
37	種子島中央									40	33	32	38													
38	屋久島									40	22	25	23													
39	奄美					40・80・80	21	26	25	80	57	49	49		40	29	30	24	看護40	6	8	10				
40	大島北									40	22	28	19													
41	喜界									40	23	31	14													
42	沖永良部									40	30	28	26													
(定時)	(開陽)									40	25	26	14													
(定時)	(奄美)									40	12	7	3	1												
		「農業科」10校：1,061人				「工業科」13校：4,220人				「商業科」24校：4,334人					「家庭科」7校：1,172人				「水産」1校：289人 「看護」2校：56人 「福祉」3校：144人				「その他」2校：119人			

本県公立高校「総合学科」の現状（令和7年4月）

	学校名	募集定員	1年 在籍者数	系列名		2年 在籍者数	3年 在籍者数	学習内容（科目等）
1	枕崎 H10.4 学科設置	80	18	文理	進学コース		5	普通教科・科目等
					教養コース	21	20	芸術・家庭・福祉・商業等
				ビジネス情報		6		簿記、ビジネス情報、財務会計等
				計		27	25	
2	鶴翔 H17.4開校 阿久根農業 阿久根 長島を統合	80	40	アカデミア		17	11	普通教科・科目等
				情報ビジネス		16	18	情報実習・ビジネス基礎等
				スポーツ健康科学		9	8	スポーツ理論・社会福祉基礎等
				環境緑地		7	8	農業土木設計・造園計画等
				計		49	45	
3	徳之島 H18.4開校 徳之島 徳之島農業 を統合	40	32	生物生産		14	12	園芸・食品製造・地域農業等
				情報ビジネス		19	16	ビジネス情報・簿記会計・地域経済等
				生活科学		8	8	食物・被服・保育等
				計		41	36	
4	川薩清修館 H19.4開校 樋脇 入来商業を統合	80	60	文理		22	8	普通教科・科目
				スポーツ健康		9	19	体育・生活文化・社会福祉基礎等
				情報マネジメント		8	19	プログラミング・会計実務等
				計		39	46	
5	霧島 H20.4開校 栗野工業 牧園を統合	40	21	観光マネジメント		9	4	観光及び商業に関する科目
				生活科学		7	5	被服・食物・保育等
				人文芸術	進学コース	15	8	普通教科・科目
					音楽コース			芸術に関する幅広い活動を通して専門的な知識や技術
					美術コース			
計		31	17					
合 計			171			187	169	「総合学科」5校：527人

■ 本県公立高校（全日制・定時制）卒業後の進路状況（令和7年3月）

※調査対象：本県公立高校卒業生全員（8,391人）



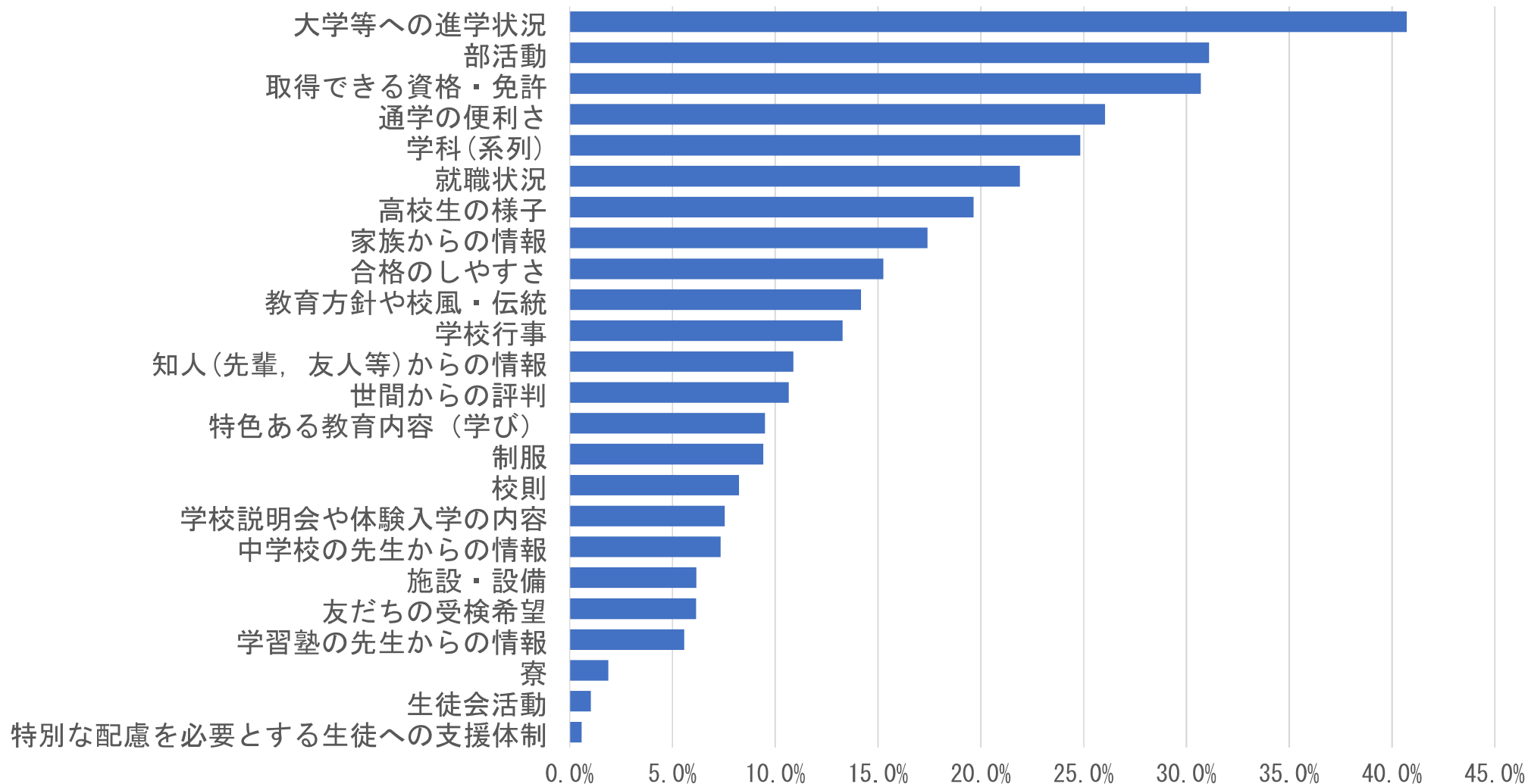
※ 「その他学科」には、理数科，文理科，文理科学科，体育科，情報科学科，音楽科，美術科，スポーツ健康科，生活情報科を含む。

※ グラフ内の数値は、項目毎の人数。

■ 本県公立高校（全日制・定時制・通信制）入学者アンケート（令和7年4月）

※調査対象：本県公立高校入学者全員（9,808人）【回答者数6,804人（回答率69.4%）】

あなたは高校を選ぶとき、何を重視しましたか。（五つまで選択可）



令和8年3月県内公立及び国立の中学校等卒業予定者の進路希望状況（令和7年7月）

調査 年度	区分	公立及び国 立の中学校 等卒業予定	高校等進学			就 職	専修学校 各種学校	職業訓練 機 関	その他
			計	県 内 公立高校	私 立 ・ 高 専 等				
R 7	実数	14,590	13,857	9,795 [307]	4,062	33	18	3	679
	対前年度 増 減 数	+57	▲ 25	▲ 398	+373	▲ 1	+9	▲ 1	+75
	比率	100.0%	95.0%	67.1%	27.8%	0.23%	0.12%	0.02%	4.65%
R 6	実数	14,533	13,882	10,193 [297]	3,689	34	9	4	604
	対前年度 増 減 数	▲ 261	▲ 325	▲ 132	▲ 193	▲ 9	▲ 10	+2	+81
	比率	100.0%	95.5%	70.1%	25.4%	0.23%	0.06%	0.03%	4.16%
R 5	実数	14,794	14,207	10,325 [322]	3,882	43	19	2	523
	対前年度 増 減 数	+222	+111	▲ 61	+172	+5	▲ 18	▲ 2	+126
	比率	100.0%	96.0%	69.8%	26.2%	0.29%	0.13%	0.01%	3.54%

- 注 1 「県内公立高校」の欄の[]は、全日制普通科における一定枠での学区外入学希望者数の再掲である。
- 2 「私立・高専等」は、私立高校及び高専並びに県外の国立・公立高校への進学希望者である。
- 3 「その他」は、通信制課程や特別支援学校への進学希望者及び未定者等である。
- 4 「比率」は四捨五入しており、比率の合計が各項目の合計と一致しない場合がある。

令和8年3月県内公立及び国立の中学校等卒業予定者の進路希望状況（令和7年7月）

調査 年度	区分	合計	普通科	専 門 学 科									総合 学科
				計	農業	工業	商業	家庭	水産	看護	福祉	その他	
R 7	実数	9,795	5,841 [307]	3,809	354	1,582	1,304	385	101	8	40	35	145
	対前年度 増減数	▲ 398	▲ 269	▲ 139	+28	+18	▲ 194	▲ 1	+14	▲ 9	+5	0	+10
	比率	100.0%	59.6%	38.9%	3.6%	16.2%	13.3%	3.9%	1.0%	0.1%	0.4%	0.4%	1.5%
R 6	実数	10,193	6,110 [297]	3,948	326	1,564	1,498	386	87	17	35	35	135
	対前年度 増減数	▲ 132	▲ 52	▲ 53	▲ 3	▲ 13	+60	▲ 31	▲ 34	▲ 11	▲ 9	▲ 12	▲ 27
	比率	100%	59.9%	38.7%	3.2%	15.3%	14.7%	3.8%	0.9%	0.2%	0.3%	0.3%	1.3%
R 5	実数	10,325	6,162 [322]	4,001	329	1,577	1,438	417	121	28	44	47	162
	対前年度 増減数	▲ 61	+57	▲ 106	▲ 9	▲ 98	▲ 10	▲ 2	▲ 8	+2	+13	+6	▲ 12
	比率	100%	59.7%	38.8%	3.2%	15.3%	13.9%	4.0%	1.2%	0.3%	0.4%	0.5%	1.6%

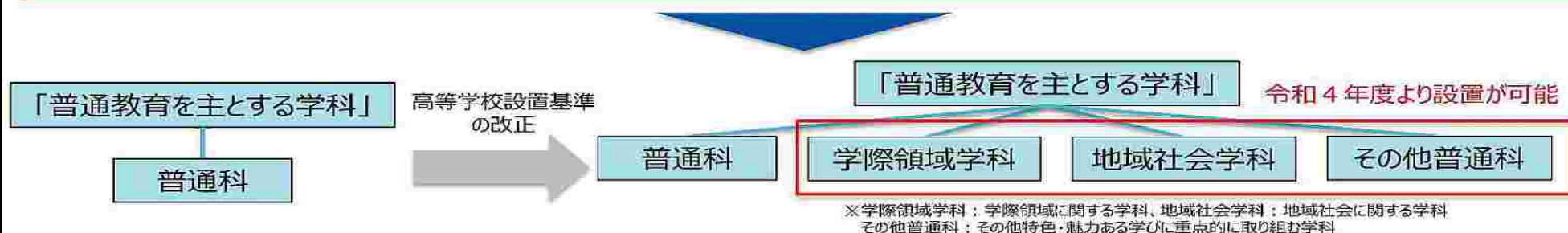
- 注 1 「県内公立高校」の欄の[]は、全日制普通科における一定枠での学区外入学希望者数の再掲である。
- 2 「普通科」には理数科、情報科学科、文理科学科、音楽科、美術科、体育科、スポーツ健康科、文理科、アスリートスポーツ科、ミライデザイン科を含む。
- 3 「専門学科」の「その他」は、生活情報科である。
- 4 「比率」は四捨五入しており、比率の合計が各項目の合計と一致しない場合がある。

説明資料

2 本県県立高校「普通科」の取組

「普通教育を主とする学科」の弾力化－普通科改革の意義・概要

- 普通科には高校生の約 7 割が在籍する一方で、**生徒の能力・適性や興味・関心等を踏まえた学びの実現に課題がある**との指摘もなされており、「普通」の名称から**一斉的・画一的な学びの印象を持たれやすい**ところ、普通科においても、生徒や**地域の実情に応じた特色・魅力ある教育を実現**する。
- 普通科において特色・魅力ある教育を行うにあたって、従来の文系・理系の類型分けを普遍的なものとして位置付けるのではなく、総合的な探究の時間を軸として、**生徒が社会の持続的発展に寄与するために必要な資質・能力を育成するための多様な分野の学びに接することができるようにする**。



学際領域学科

現代的な諸課題のうち、**SDGsの実現やSociety5.0の到来に伴う諸課題**に対応するために、学際的・複合的な学問分野や新たな学問領域に即した最先端の特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科

地域社会学科

現代的な諸課題のうち、高等学校が立地する地元自治体を中心とする**地域社会が抱える諸課題**に対応し、地域や社会の将来を担う人材の育成を図るために、現在及び将来の地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科

その他普通科

その他普通教育として求められる教育内容であって当該高等学校のスクール・ミッションに基づく特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科

「普通教育を主とする学科」の弾力化－新学科の要件

- (1) 各学科の特色等に応じた学校設定教科・科目を設け、当該学校設定教科・科目（2単位以上）及び総合的な探究の時間を合計6単位以上、全ての生徒に対し、原則として各年次にわたって、履修させること
- (2) 学校設定教科・科目と総合的な探究の時間について、相互の関連を図り、系統的、発展的な指導を行うことに特に意を用いること
- (3) 学際領域学科においては、大学等の連携協力体制を整備すること
- (4) 地域社会学科においては、地域の行政機関等との連携協力体制を整備すること
- (5) 学際領域学科及び地域社会学科においては、関係機関等との連携を行う職員の配置その他の措置を講じるよう努めること

新たな学科において考えられる学校設定科目の例

社会科学 研究	社会科学的な考え方をを用いて現在の経済活動を読み解き、現代社会の特質や課題について認識を深め、社会課題の解決策を提案
クリティカル シンキング	文脈の中で抽象語を理解し、複数の立場から論じられている文章の読解等を通して、多面的・総合的に考える能力や自分の考えを適切に表現する能力を育成
グローバル 探究	データに基づく論理的思考や調査手法等の研究手法を学ぶとともに、グローバルな社会課題についてSDGsの達成に向けた研究活動を実施
地域学	フィールドワーク等を通して、地域の現状・歴史を知り、地域の課題やニーズを把握。収集した情報を整理・活用し、課題を明確化し、行政・地域・福祉施設等との協議を通して、具体的な解決策を提案。こうした学習の課程においてコミュニケーション能力や交渉力を育成

連携協力体制

＜学際領域学科の例＞



＜地域社会学科の例＞



新しい普通科における学校設定科目

学 際	福岡県立八幡高等学校 文理共創科 「 知の追究 」「 知の探究 」 計4単位・1～3学年	「知の追究」では教科等横断的な授業を通して、文系・理系の枠を超えて複数の教科・科目を融合し、学問と社会との繋がりや生きる上での学問の意義を感じ得させ、主体的に学問に向き合う姿勢の育成を目指す。「知の探究」では物事を多角的、複合的に捉え論理的に考察し表現することで、学問領域を統合してアプローチする際の手段となる情報活用能力や課題発見・解決に繋がる豊かな発想力を育成する。
地 域	学校法人信愛学園 浜松学芸高等学校 探究創造科 「 探究創造概論 」「 演習 」 計12単位・1～3学年	探究創造概論は、主に学校内にてプロジェクト学習およびそれに必要な基本的スキルや理論を習得するための学習を中心に構成。探究創造演習では、概論で身につけた知識・技能をもとに、主に校外を活動の中心地としてプロジェクトで設定されたテーマや生徒が自ら設定した課題の解決に向けたアイデア構築、制作、プレゼンなどの企画実行に取り組む。
特 色 が あ る 科 目	和歌山県立串本古座高等学校 未来創造学科（宇宙探究コース） 「 宇宙探究基礎 」 2単位・1学年	民間ロケット発射場が近接しているメリットを活用し、自らの在り方・生き方としっかり向き合い、Society 5.0を生き抜くために必要な力を育成する。宇宙実験に挑戦したり、水ロケットミッションを探究的かつ、競技的な要素を取り入れつつ運動の仕組みや物理・数学に関する内容を組み込みながら学ぶ。また、身近な材料でマイ望遠鏡を作成し、天体観測と天体写真に挑戦するとともに、宇宙飛行士トレーニングを協働的に学ぶことにより、チームビルディングを体験的に学ぶ。
	鹿児島県立種子島中央高等学校 ミライデザイン科 「 DX 」 7単位・1～3学年	自ら課題を発見し、解決までの過程を筋道立てて構築する力（デザイン思考）と、課題解決のための有効的な手段として、目的に応じてデジタルツールを適切に選択・活用できる力（デジタル技術）の2つの力を育成。デザイン思考では、課題発見力・コミュニケーション力育成のための活動を行い、デジタル技術ではデータサイエンスに関する基礎力の習得を行う。



■ 新しい普通科：種子島中央高等学校ミライデザイン科（令和6年度～）

【目的・必要性】

国の普通科改革や令和3年度の魅力ある県立学校づくりに向けた懇話会のとりまとめを受け、新しい普通科である「ミライデザイン科」を種子島中央高校に設置することで、普通科の特色化・魅力化を推進するとともに、学校設定科目「DX」や総合的な探究の時間を軸に教科横断的な学びに取り組むことで生徒が多様な分野の学びに接する機会を作る。

○ 種子島中央高校の新学科

高等学校設置基準の改正により、普通科に新しい学科を設置することが可能となったことを受けて、種子島中央高等学校の「普通科(2学級)」を、令和6年4月に、新たに「普通科(1学級)」及び新しい普通科「ミライデザイン科(1学級)」に再編した。

○ 学科再編の目的

デザイン思考
×
デジタル技術

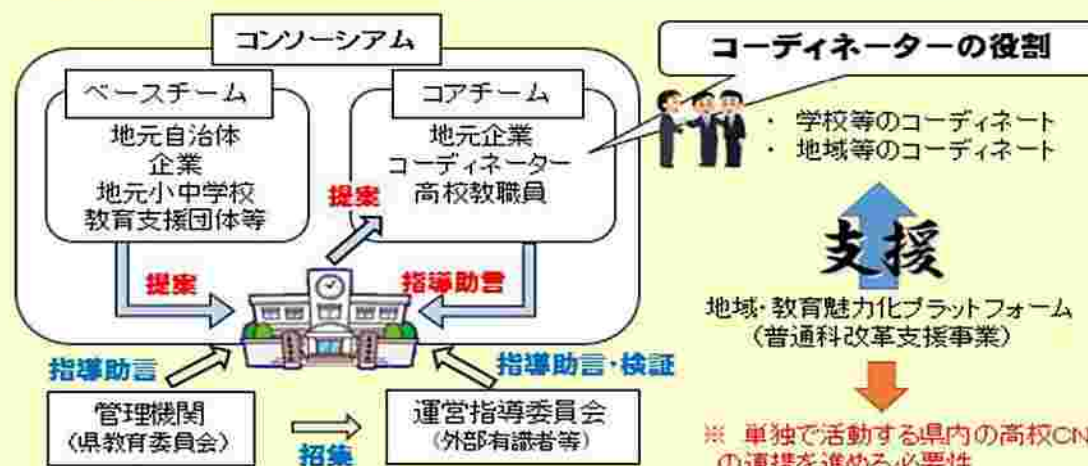
“デジタル人材”に求められる
資質・能力の育成

×

DX

高等学校DX加速化推進事業
(令和6年度文部科学省事業)

ICTを活用した文理横断的・探究的な学びを強化する
学校に対して、必要な環境整備の支援



～デジタル環境の整備～

- ・ ハイスペックPCによるデジタル技術実習
- ・ アクティブラーニングルームの設置
- ・ オンライン授業の充実
- ・ メタバースなどの仮想空間作成ツールの導入
- ・ デジタル工作機械等の整備 等

- 普通科改革支援事業(R7まで)と高等学校DX加速化推進事業(単年)終了後に、学校が自走するための体制等を整備する。



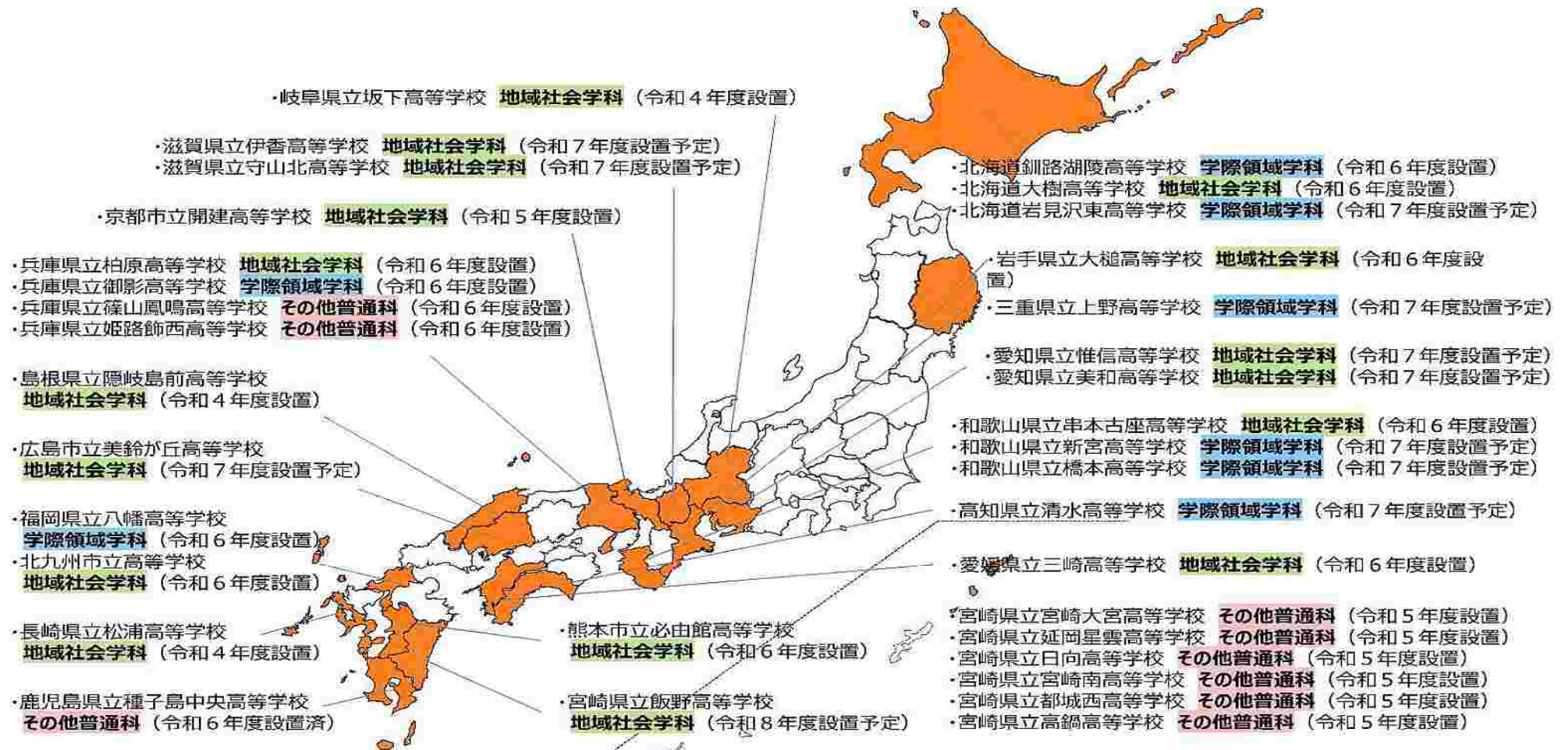
国の普通科改革に併せて新たな普通科設置を行い、探究活動や魅力ある文理融合的な学びを実現



「普通教育を主とする学科」の弾力化－新しい普通科の設置状況

公立高等学校における新しい普通科設置状況

※令和6年5月時点



※私立高等学校は5校設置

※令和5年度学校基本調査及び普通科改革事業（令和4年度指定校、令和5年度指定校）等より、文部科学省事務局において作成

長崎県立松浦高等学校の事例（地域社会に関する学科の設置）

新学科の概要

地域や社会の未来を担うリーダーの育成を図るために、高等学校が立地する地元自治体を中心とする**地域社会から得られる様々な分野の知見を学ぶことにより教養を深め、現在及び未来の地域社会が有する課題や魅力に着目した科学的・実践的な学びに重点的に取り組む学科を導入**

＜現状＞ 普通科 2 学級、商業科 1 学級 → ＜改編後＞ **地域科学科 2 学級**、商業科 1 学級

地域科学科（新学科）におけるカリキュラムイメージ

地域を科学し、未来を拓く教養を身に付けるプログラム

キャリアプランニングに応じた普通教科科目の学びと地域課題解決型学習（まっナビ・プロジェクト）により、社会の変化に対応できる「課題解決能力」と「ふるさとを大切にできる姿勢」を身につけさせることで、キャリア形成（希望進路実現）を図る

学校の特色等に応じた学校設定科目「まっナビ・プロジェクト」

- ・第 1 学年（プレまっナビ）：基礎的知識・技能等の習得、課題研究テーマの設定
- ・第 2 学年（まっナビ）：校外で課題研究の計画的実施、解決策等を提言
- ・第 3 学年（ポストまっナビ）：個人研究と、地元小中学生に研究成果を報告
（研究テーマ例：「空き家を利用して便利で賑やかな町にしよう」、
「タータン×松浦の魅力」、「農業っていいね!!」）

＜従来の普通科との違い＞

- ・普通教育に基盤を置きながら、**地域社会の諸課題に積極的に関わり、「課題発見力」「論理的思考力」「コミュニケーション力」などの資質・能力を育成するための「科学的な学び」「実践的な学び」に重点を置く**
- ・総合的な探究の時間及び学校設定教科・科目において、**社会的課題や地域が有する魅力と自分との関わりについて領域横断的に学習**



令和 2 年度
課題研究
『農業って
いいね!!』

地域との連携体制

高校生と課題解決のマッチングを効果的に行うための**コンソーシアム**を構築

- ・地域との協働による活動を学校の教育活動に明確化
- ・専門人材の配置等、校内体制の構築
- ・学校と地域をつなぐコーディネーターを指定
- ・将来の地域ビジョン・求める人材像を共有し、地域協働に資する学習カリキュラムを開発 等



※長崎県教育委員会等資料を基に文部科学省において作成

「普通教育を主とする学科」の弾力化－コーディネーターの例



#専任

愛媛県立三崎高等学校 社会共創科

経歴等 >>>

教職経験や一般企業での海外勤務経験等の幅広い経験を有する。

業務内容 >>>

三崎高等学校の職員室に常駐し、校内の地域協働課に配属。「未咲輝（みさき）学」等のアップデート、地域探究活動に関係する新しい学校設定科目「トライブ・ラーニング」等の立案、地域特別講師データベースの構築、新事業の企画立案や外部人材との連絡・調整等を行っている。また、教員や生徒とともに、学校の魅力を全国の中학생に向けて発信している。



#NPO・企業等関係者

北海道大樹高等学校 地域探究科

経歴等 >>>

大樹町教育委員会社会教育課地域コーディネーター（小・中学校の地域連携）や大樹町学校運営協議会委員、自治体等のPRプロジェクトマネジメント、企業インターンシップのコーディネート等の経験を有する。

業務内容 >>>

コーディネーター統括として、探究学習のカリキュラムマネジメント等を行うとともに、学校や運営指導委員会、コンソーシアム、学校運営協議会、町教育委員会との連絡・調整を行っている。また、地域・校外向け情報発信をプロデュース。地域探究サークル顧問も担っている。



#大学関係者

北九州市立高等学校 未来共創科

経歴等 >>>

北九州市立大学准教授。高大連携事業や高大接続についての取組をゼミ活動として実施している。

業務内容 >>>

教職員への研修業務や学校設定教科・科目のカリキュラム開発にかかる指導・助言、検討委員会が策定するカリキュラムづくりの支援、事業実施体制の構築、年間指導計画の策定、評価方法の設計等を支援する。また、北九州市立大学と北九州市立高等学校との連携活動や、学校の要望に応じて、大学生を交えた探究活動の企画・調整等を行う。



#退職教職員

長崎県立松浦高等学校 地域科学科

経歴等 >>>

元松浦市立中学校長

業務内容 >>>

「まっナビ・プロジェクト」を活用した松浦高等学校と近隣小中学校との交流学習の企画・運営。「まつら高校応援団」等と、生徒の学びへの支援内容等について調整。探究活動等が可能となる団体・人物に支援を依頼。近隣小中学校や市、事業所等との意見交換や情報収集等。近隣中学校に対する地域科学科の生徒募集活動。県内外の高校との連携事業を具体化し、生徒間・教員間の意見交換の場を設定。

未来を切り拓く！新時代に対応した資質・能力育成推進事業

【趣旨】

学習の基盤となる資質・能力や、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成するため指導と評価の一体化の研究を推進し、その成果を普及させる。

【高校教育が目指す方向と課題】

超スマート社会（「Society5.0時代」）において、主体的に学んで必要な情報を判断し、よりよい人生や社会の在り方を考え、多様な人々と協働しながら問題を発見し解決していくために必要な力を、生徒一人一人に育てていくためには、あらゆる教科等に共通した学習の基盤となる資質・能力や、教科等の学習を通じて身に付けた力を統合的に活用して現代的な諸課題に対応していくための資質・能力を、教育課程全体を見渡して育てていくことが重要となる。

【課題1】

- 高校の授業における指導上の問題
 - ・ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が不充分
 - 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
 - 「指導と評価の一体化」の充実
 - 教師のICT活用指導力の向上

【課題2】

- 高校生を取り巻く学習への取組が変化
 - ・ 学習時間の減少や学習意欲の希薄化
 - ・ 生徒の興味・関心、能力・適性の多様化
 - ・ 生徒の自己肯定感の低下
 - 生徒たちの可能性を引き出す機会が必要
- 高校生を取り巻く進路環境の変化
 - ・ 就業構造の変化や進路選択の多様化
 - キャリア教育・進路指導の充実必要

令和の日本型学校教育推進支援プログラム

- ◎ 研究指定校（3校）の指定（3年間）
（研究推進委員の募集5教科×5人）
 - * 現代的な課題に対応して求められる資質・能力を、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点に基づき育成する。

県立高校探究リーダー育成プログラム

- ◎ 探究力向上セミナーの開催（年3回）
 - * 探究活動についてのオンライン講習会を開催。各学校からは生徒3～4人及び顧問教師1人を1グループとして参加。
- ◎ 高校生探究コンテスト
 - * 各高校の代表による発表会

生徒支援プログラム

- ◎ 夏トライ！ グレードアップ・ゼミの開催（8月初旬）
 - * 大学進学を希望する高校2年生（300人程度）を対象に授業力のある教員が授業を行う
 - * 生徒の学習意欲の向上、進路意識の高揚、学力向上を図ることが目的

キャリア・デザインプログラム

- ◎ キャリア・デザインセミナーの開催（年1回）
 - * 高校生を取り巻く進路環境の大きな変化を踏まえ、各学校の特色を生かしたキャリア教育と進路指導の充実を図ることが目的

【期待される効果】

- 1 「主体的・対話的で深い学び」をとおして、新しい時代に求められる資質・能力の育成につながる
- 2 生徒の可能性を引き出すことで、生徒の学びに向かう力の向上につながる
- 3 各学校の特色を生かしたキャリア教育・進路指導の更なる充実が図られる

生徒が超スマート社会に求められる資質・能力を身に付け、進路目標を実現する

県立高校探究リーダー育成プログラム

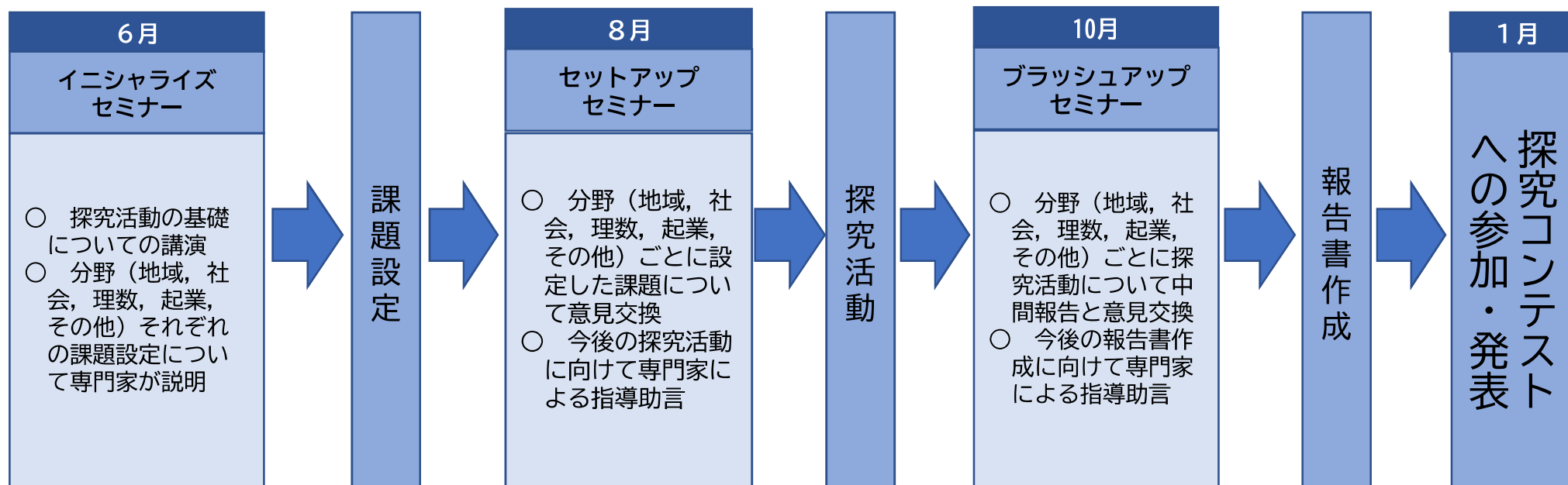
【目的・必要性】

令和5年6月に閣議決定された新たな教育振興基本計画のコンセプトとして「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を掲げており、「多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるための教育の在り方」を実現するために、「幸福感、学校や地域でのつながり、利他性、協働性、自己肯定感、自己実現等が含まれ、協調的幸福と獲得的幸福のバランスを重視」すべきとしていることから、これまで以上に「主体的に社会の形成に参画、持続的社会的発展に寄与する」人材の育成が求められている。高等学校におけるこうした人材の育成のため、「主体的・対話的で深い学び」の核となる探究活動の充実を図る必要がある。

【事業内容】

- 県立高校の生徒とその指導を行う教職員を対象に、探究活動の進め方等についてのセミナーを開催し、各高校における探究活動の充実を図る。
- 各高校からは、探究活動に興味・関心が高い生徒とその指導を行う教職員が受講登録をしたうえで、各セミナーに参加する。
- 参加者は、各学校において成果を発表するとともに、探究活動を推進するリーダーとして活動する。

事業の流れ



■ 高校生探究コンテスト（探究学習成果発表大会）

○ 目的

高校生に課題研究等の探究学習の成果を校外で発表する場を提供し、異なる分野において設定された課題について探究活動を行った生徒と切磋琢磨する経験をさせることにより、探究学習への意欲を高め、これからの時代に求められる思考力・判断力・表現力等の育成を図る（探究学習を支援・促進するような教師の育成を図るとともに、本県の更なる探究学習の可能性を展開する）。

○ 対象者：県内公立高等学校に在籍する生徒

○ 令和6年度の結果概要

- ・ 応募数 スライド発表の部 27校47点
ポスター発表の部 21校97点
- ・ 最終審査会 22校から生徒362人，教員・一般50人
指導助言者26人，企業等13人 計451人
- ・ 審査結果 スライド発表の部
最優秀賞 自然科学分野：錦江湾
社会科学分野：甲南，曾於
ポスター発表の部 生徒間投票12点，特別賞8団体

■ 夏トライ！グレードアップゼミ（探究ワークショップ）

○ 目的

- (1) 進学に関し、同じような意識を持った生徒たちが一堂に会し、切磋琢磨しながら学習することで、より明確な進学意識の涵養を図る。
- (2) ゼミを公開することで、授業担当教員の資質向上とともに、参観教員の指導法改善に役立てる。

○ 対象者：県内公立高等学校2年生，各公立高等学校教諭等

○ 令和6年度の状況

- ・ 参加校：県立23校，市立1校 参加者：参集型147人，オンライン16人

○ 内 容

- ・ 1日目：講演会（60分），授業（60分×3コマ）
- ・ 2日目：授業（60分×2コマ），**ワークショップ**

○ ワークショップの内容

- ・ 『**探究ワークショップ**』
探究の「課題設定」に焦点を当て，様々な視点からテーマについて考え，今後の探究活動につなげられるよう学び合う。
- ・ 『主権者教育ワークショップ』
- ・ 『鹿児島大学による教育志望の生徒のための講座』

高校生サミットIN奄美（奄美群島高校探究コンソーシアム主催）



高校生サミット IN奄美 2025

基調講演 | 課題研究発表会 | 生徒交流会

日時：2025年3月19日（水）9：00～16：40
会場：鹿児島県立大島高等学校
主催：奄美群島高校探究コンソーシアム

参加高校：大島高校 奄美高校 大島北高校 沖永良部高校
喜界高校 古仁屋高校 樟南第二高校 徳之島高校
与論高校 横濱サイエンスフロンティア高校

大島高校公式YouTubeチャンネルにてライブ配信あり。
<https://www.youtube.com/@koukouoshima9827>

画像提供(C)Amami City

大会テーマソング：『あたらしい歌』 東郷昌子

ようこそ高校生サミットIN奄美2025へ！

SCHEDULE

9:00～9:20	開会宣言（大会生徒委員長）・開会挨拶（奄美群島高校探究コンソーシアム会長） 祝辞（奄美群島広域事務組合管理者 安田 壮平【奄美市長】） 集合写真撮影
9:20～9:30	歓迎アトラクション：奄美民謡 （大島高校卒業生 時岡 優里菜 さん）
9:30～10:00	基調講演『もうひとつの故郷・奄美 ーパッションフルーツ研究の先に見えるものー』
10:10～12:05	課題研究発表【午前の部】 ※途中休憩有り
12:05～12:55	昼休憩
12:55～13:10	アトラクション【大島高校 書道部】
13:10～15:00	課題研究発表【午後の部】 ※途中休憩有り
15:10～15:40	全体総評
15:50～16:40	生徒交流会

講演者

岩井 久

鹿児島大学
理事
副学長（企画・社会連携担当）
奄美群島拠点 拠点長



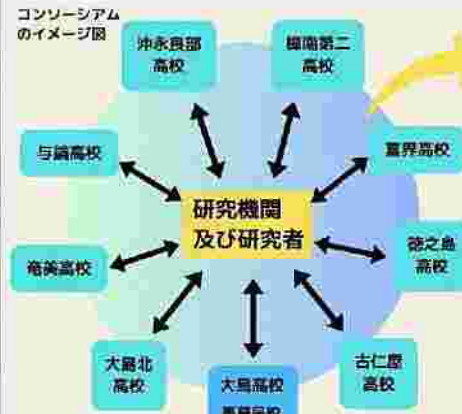
課題研究発表

- ・【午前】、【午後】で5グループずつ発表
- ・発表時間10分
- ・質疑応答10分
- ・途中休憩を挟みます

奄美群島高校探究コンソーシアム

第9回NITS大賞（独立行政法人教員会賞）
機関賞（令和6年度表彰事業） 大賞受賞

コンソーシアムのイメージ図



コンソーシアムに参加する研究機関及び研究者からの支援

- ①各高校の探究活動のサポート
- ②「高校生サミットIN奄美」（奄美群島高等学校課題研究発表会）での指導助言

コンソーシアムメンバーの支援内容のデータベース化

※各学校が、支援する研究者等の情報を共有し、必要に応じて、研究機関や研究者に直接依頼することが可能に。

【参画団体】

- ・奄美群島高等学校全9校
（大島高校、奄美高校、大島北高校、沖永良部高校、喜界高校、古仁屋高校、樟南第二高校、徳之島高校、与論高校）
- ・鹿児島大学、東京大学大気海洋研究所、志学館大学、第一工科大学、駒澤大学応用地理研究所、株式会社アーデン
鹿児島国際大学、鹿児島純心大学

■ スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業①

○ 事業の趣旨

高等学校及び中高一貫教育校における先進的な科学技術，理科・数学教育を通して，生徒の科学的な探究能力等を培い，もって，将来国際的に活躍し得る科学技術人材等の育成を図ることとする。（SSH実施要項より抜粋）

○ 本県指定校（公立）・研究開発課題

- ・ 錦江湾高校
「生徒の“気づき”から学びを深化させる錦江湾SSH探究プロジェクト」
- ・ 鹿児島中央高校
「協働的な活動の中で主導的な役割を担い，科学的な思考によりさまざまな課題を解決できる術を身に付け，未来を担う人材の育成 ～現代の『造士館』を目指してⅡ～」
- ・ 国分高校
「霧島から世界へ イノベーティブな科学系人材の育成を目指した国分プログラムの開発と展開」
- ・ 甲南高校
「より良い未来創造に挑戦し続ける科学技術系グローバルリーダーの育成」

■ スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業②

○ SSHコーディネーター事業

令和7年度 SSHコーディネーター 採択

目的：① SSH校（県立4校）の取組への支援と県内SSH校の連携強化

② 高校や大学，県機関，NPO法人，企業等との県高校探究コンソーシアムの構築

③ SSH研究開発の成果の普及

○ SSH交流フェスタ（令和7年度は，12月11日に実施予定）

目的：SSH校（5校）及び課題研究に取り組んでいる県内高校生の探究力やプレゼンテーション能力を高め，新たな課題を自ら見つけ，考え，判断し，解決するに至る学びの過程を報告しあうことにより，互いに切磋琢磨し意識の高揚を図る。また，県下高校理数教育及び文理課題研究の発展と普及を図るための場とする。

○ 鹿児島科学技術コンソーシアム（仮称）の創設【令和8年度から（予定）】

目的：SSH校及び加入を希望する一般校からなる鹿児島科学技術コンソーシアムを構成し，鹿児島県における探究活動を充実させるとともに，理数教育発展と科学技術人材の育成を目指す。

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の取組事例（令和6年度）



【概要】

SSH 指定校では、各学校で作成した計画に基づき、独自のカリキュラムによる授業の展開や、大学・研究機関との連携による授業、地域の特色を活かした課題研究などに積極的に取り組み、普段の高校生活では出会えない人との出会い、交流、研修による体験、発表等を行っています。

実践型

福島県 Ⅳ期 国際交流

福島県立福島高等学校

英国高校生と、東北大学での研究体験や震災関連施設での研修など科学を通じた交流・学術活動を行うことで、世界で活躍するリーダー育成を目指す取組

英国の高校生を日本に招いて、東北、関東、関西の高校生と共に、東北大学での研究体験活動や福島県での震災研修を行う「日英サイエンスワークショップ」を6泊7日で実施しました。福島第一原子力発電所視察研修後のディスカッションでは、多種多様な視点からエネルギー問題を考え、東北大学では、実際の研究活動を体験し、その成果を発表することで、国際的な研究者としての資質や能力を向上させました。研修に参加した同校生が福島県内のSSH3校による英語研究発表会の運営において活躍するなど、周囲への波及効果も大きく、系統的な人材育成プログラムの一端を担う事業です。



福島第一原子力発電所視察研修後のディスカッション

実践型

大分県 Ⅲ期 地域との連携

大分県立日田高等学校

地域の課題解決を目指す「水郷ひた学」の授業において、一般社団法人、日田市のコーディネートや支援のもと、地元のアラゆる資源と連携する取組

「水郷」と呼ばれる豊かな資源に囲まれた同校は地理的条件により大学等との連携に難しさがある一方で、水郷を生かして様々な特徴を持った企業や団体があります。地域の課題解決を目指す「水郷ひた学」の授業では、課題発見を目的としたフィールドワーク、解決に向けた企画案を発表する意見交換会、社会実装のアイデアを地域へ提言する成果発表会を行っています。その全てにおいて、一般社団法人のコーディネートや日田市の支援のもと多くの人的、物的資源と連携・交流する中で、探究する力や波及させる力を育成するとともに、地域の未来を開拓する人材育成を目指しています。



地元企業の方と意見交換をする様子

実践型

兵庫県 Ⅲ期 カリキュラム開発

兵庫県立明石北高等学校

多分野融合がもたらす内面的な成長と創造的思考力の深化
「地域と連携して生徒の興味関心を広げるSTEAMの学び」

同校では1学年自然科学科の生徒を対象に、地元企業や博物館、美術館、大学等と連携した11種類のSTEAM研修を展開しています。各研修に共通するねらいは、実践的な活動を通して多分野融合の重要性を実感させることです。Mとして数学検定とプログラミングを必須、S・T・E・Aから2つの分野を選択させます。数学検定は同校開発教材を用いて、課題研究を進めるために必要な対数や三角関数等を授業に先駆けて自学させます。生徒の興味関心が定着する前に、実験や実習を取り入れた多様な研修を提供し、科学技術分野における関心の広がりや創造性の深まりを促進させています。



X線撮影による画像処理(微分積分の応用)の様子

【高等学校教育の更なる充実にに向けた取組等】

令和7年度予算額（案）	2億円 （新規）
令和6年度補正予算額	74億円



高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）

現状・課題

大学教育段階で、デジタル・理数分野への学部転換の取組が進む中、その政策効果を最大限発揮するためにも、高校段階におけるデジタル等成長分野を支える人材育成の抜本的強化が必要

事業内容

情報、数学等の教育を重視するカリキュラムを実施するとともに、専門的な外部人材の活用や大学等との連携などを通じてICTを活用した探究的・文理横断的・実践的な学びを強化する学校などに対して、そのために必要な環境整備の経費を支援する

支援対象等

公立・私立の高等学校等
（1,200校程度）

箇所数・補助上限額 ※定額補助

- ・継続校 : 1,000校 × 500万円（重点類型の場合700万円）
- ・新規採択校 : 200校 × 1,000万円（重点類型の場合1,200万円）
- ・都道府県による域内横断的な取組：47都道府県 × 1,000万円
※必須要件に加えて、各類型ごとの取組を重点的に実施する学校を重点類型として補助上限額を加算（80校（半導体重点枠を含む））

採択校に求める具体的な取組例（基本類型・重点類型共通）

- ・情報Ⅱや数学Ⅱ・B、数学Ⅲ・C等の履修推進（遠隔授業の活用を含む）
- ・情報・数学等を重視した学科への転換、コースの設置
- ・デジタルを活用した文理横断的・探究的な学びの実施
- ・デジタルものづくりなど、生徒の興味関心を高めるデジタル課外活動の促進
- ・高大接続の強化や多面的な高校入試の実施
- ・地方の小規模校において従来開設されていない理数系科目（数学Ⅲ等）の遠隔授業による実施
- ・専門高校において、デジタルを活用したスマート農業やインフラDX、医療・介護DX等に対応した高度な専門教科指導の実施、高大接続の強化

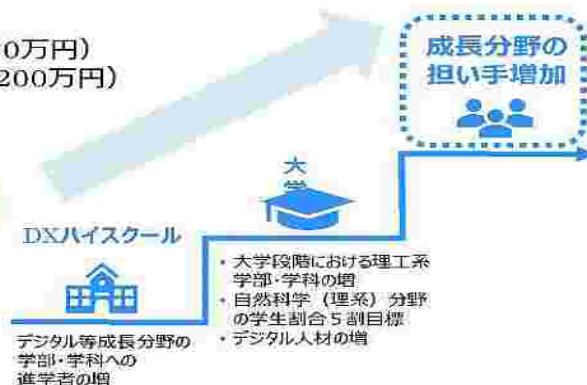
採択校に求める具体的な取組例

（重点類型（グローバル型、特色化・魅力化型、プロフェッショナル型（半導体重点枠を含む）））

- ・海外の連携校等への留学、外国人生徒の受入、外国語等による授業の実施、国内外の大学等と連携した取組の実施等
- ・文理横断的な学びに重点的に取り組む新しい普通科への学科転換
- ・産業界等と連携した最先端の職業人材育成の取組の実施

支援対象例

ICT機器整備（ハイスペックPC、3Dプリンタ、動画・画像生成ソフト等）、遠隔授業用を含む通信機器整備、理数教育設備整備、専門高校の高度な実習設備整備、専門人材派遣等業務委託費 等



事業スキーム



（担当：初等中等教育局参事官（高等学校担当）付）



高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）

重点類型

重点類型では、情報Ⅱ等の教科・科目の開設等、デジタル環境の整備と教育内容の充実の必須要件に加えて、それぞれの類型ごとの以下の要件を満たす取組を重点的に実施する高校に対して、単価を加算して支援

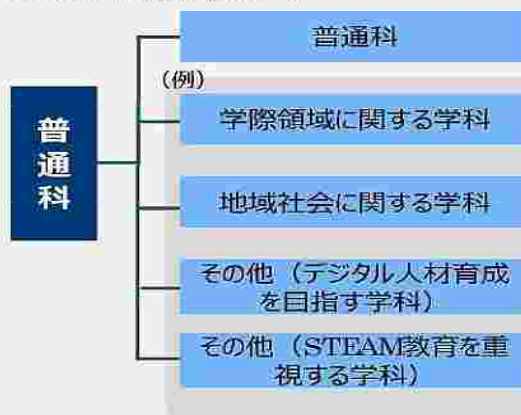
グローバル型

- ・ 海外の連携校等への短期・長期留学や海外研修等をカリキュラムの中に体系的に位置づけて、対象となる生徒が経験する
- ・ 海外の連携校等から外国人生徒を受け入れ、日本人生徒と外国人生徒と一緒に外国語等での授業を履修する
- ・ 外国人生徒を自校での卒業を前提に受け入れ、日本での進学・就職を目指し、デジタルを活用した文理横断的・探究的な学びを実施する
- ・ 国内外の大学、企業、国際機関等と協働し、国内外の高等学校等との連携による高校生国際会議等を行う 等



特色化・魅力化型

- ・ 「その他普通教育を施す学科として適当な規模及び内容があると認められる学科（新しい普通科）」を設置していること 又は当該年度中に設置することを対外的に公表すること
- ・ 設置する新しい普通科が目指す特色・魅力ある教育の実現に向けたスクールポリシーを策定する
- ・ 探究学習の充実等のため関係機関との連携協力を担うコーディネーターを配置すること
- ・ コンソーシアムを置く等関係機関等との連携協力体制を整備すること 等



プロフェッショナル型

- ・ 専門高校と産業界等の連携体制を構築すること
- ・ 企業等の技術者・研究者等による授業・実習や最先端のデジタル機器等の共同利用等を行うこと 等



プロフェッショナル型 （半導体重点枠）

- ・ 半導体に関する教科・科目を開設すること 等



■ 高等学校DX加速化推進事業（普通科高校の事例）

○ 内容

- ・ 情報，数学等の教育を重視するカリキュラムを実施するとともに，ICTを活用した文理横断的・探究的な学びを強化する学校などに対して，そのために必要な環境整備の経費を支援

○ 普通科を設置する採択校

- ・ 基本類型（12校）
⇒ 鶴丸，伊集院，川内，薩摩中央，出水，蒲生，加治木，垂水，種子島中央，大島，古仁屋，喜界

○ デジタル機器の導入事例

- ・ 普通教室に短焦点壁掛けプロジェクター設置
- ・ グラフィックボード搭載高性能PC，3Dプリンタ
- ・ 裸眼で立体的な映像を体験できる空間再現ディスプレイ
- ・ 教育用ロボット，ドローン など

DXハイスクール 取組事例

【高等学校教育の更なる充実に向けた取組等】

イメージ画像はAdobe Fireflyにて生成

千代田区立九段中等教育学校
(公立・普通科)



「アイデアをカタチに」

- ・文理横断実体験型学習プログラム
- ・創造型情報実習スタジオの創設

取組

探究を軸として、数理・データサイエンス・AIなどを含む
STEAM教育の学習を取り入れたプログラム開発



外部講師（企業専門家や大学・専門学校講師等）を招聘し
文理を横断した実体験型プログラムの実施。

実習案

モーションデータ分析実習、校内スマート菜園実習、
デジタルファブリケーション実習、デジタル作曲音声合成実習、
VR空間体験実習等

※ 情報Ⅱ、情報探究（学校設定科目）、総合的な探究の時間、
その他各教科の授業における課外プログラムにおいて実施

【実習イメージ】



（校内スマート菜園実習）



（デジタル作曲音声合成実習）



（VR空間体験実習）

データサイエンス等に十分活用できる
新情報実習スタジオ創設、校内環境整備



デジタル人材育成に資する高度なデジタル技術（設備・機器・
アプリケーション）を生徒自身が活用できる実習環境の整備を行う。

整備案

高度なデータ処理のできるハイスペックPC、IoTセンサー機器、
広帯域通信ネットワーク機器、デジタル楽器、
高性能カメラ・ドローン・VR、デジタルファブリケーション機器、
高輝度プロジェクタ等及び対応アプリケーション・資材・造作



生徒向け講習・教員向け研修の充実



外部講師及びICT支援員による定期的な講習、研修の実施を
充実させ、以下の内容を一貫性を持ち進めていく。

- ・最新のデジタル技術の活用を日常的に行うことのできる環境づくり
- ・校内の各種機器及びシステムの更新

育成する生徒像・取組による効果



自らの興味関心を活かし、社会の課題と結び付けて思考し、高度なデジタル環境を駆使することのできる生徒、アイデアを
具体的な形づくりに結び付ける探究的活動に主体的に取り組み、将来の進路に繋げる生徒を育成する。

教科情報の科目履修率（開講学年生徒の内）
情報探究（学校設定科目）50%以上

数理・データサイエンス・AI等の活用を含む総合的な探究の時間プログラムの履修率：100%※1

大学理系学部進学率：30%※2 ※1令和8年度目標値 ※2令和10年度目標値

生徒の学び方・教員の働き方のDX環境満足度向上

■ 国際理解教育①

- 1 グローバル人材育成事業（留学支援促進事業）
短期海外派遣プログラムに学校教育活動の一環として参加する生徒を対象に支援金を支給
〔令和6年度〕応募3校50人，支給20人（鹿児島育英館高校）
- 2 世界を広げる英語コミュニケーション能力育成事業
 - (1) 高校生イングリッシュトレーニングキャンプ（1泊2日）
高校生が県内のALTと英語によるコミュニケーションを体験
〔令和6年度〕県内公立高校24校，生徒75人参加
 - (2) 世界とつながれ！かごしまグローバル人材育成講演会（留学フェア）
専門家による講演，留学経験者による留学体験報告，ALTによる母国紹介・英会話体験
〔令和6年度〕小学生13人，中学生25人，高校生69人，
保護者・一般78人，教職員9人 計194人参加

■ 国際理解教育②

2 世界を広げる英語コミュニケーション能力育成事業

(3) English Café in Kagoshima

A L Tとの交流

〔令和6年度〕

①公立高校17校，生徒93人，教員17人，A L T 18人 計128人参加

②公立高校9校，生徒22人，A L T 13人 計35人参加

3 教室から世界へ！かごしまグローバルクラスルーム事業

県内の中・高等学校と海外校（台湾，ベトナム，オーストラリア）間でのオンライン交流（年4回）と派遣交流

〔令和6年度〕

・オンライン交流：中学校8校，高校10校

・派遣交流：中学校8人，高校10人（各校代表者1人）

4 A L T活用促進事業

〔令和7年度〕高校教育課配置2人，高校配置36人

WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業の取組事例（事業拠点校 広島県立広島国泰寺高等学校 公立）

構想：広島から世界へ！ 平和に貢献するグローバル人材の育成

テーマ **平和－Peace－** 人材像 **グローバルな視野と強い使命感をもち、持続可能な社会の構築や国際社会の平和と発展に貢献する人材**

特徴 ①新たな教科・科目の開発：新たな教科「H E I W A」・科目「グローバル平和探究」を開発。

✓問題の理解や解決に様々なアプローチができるテーマについて、理解を深め、実際の探究を通して多面的に探究する手法や多様な表現方法を学ぶ。
「外国語」「地理・政治・経済」「情報・数学（統計）、理科（生物）」の融合科目

②海外研修等：3ステップの海外研修を実施。 ✓フィリピンやアメリカにて現地の姉妹校の高校生や海外大学で探究活動を実施。

「ステップ1：意識・価値観の揺さぶり」「ステップ2：海外大学で学ぶ」「ステップ3：自らの課題を探究、学びを深め、社会に貢献」

③先取り履修：広島大学、県立広島大学の科目を履修する講座（「先取り履修」）を設置。

④高度な学び：「Stanford e-Hiroshima」の開講。

✓スタンフォード大学遠隔講座「Stanford e-Japan」のテーマを広島県版として

⑤国際会議等：「平和」をテーマとした高校生国際会議の開催。 改訂し、クロスカルチャーカリキュラムとして提供。

→広島県「国際平和拠点ひろしま構想」とともに、先導する人材を育成するための様々な関係機関とのコンソーシアム構築を目指す

探究活動の様子



④の様子：スタンフォード大学遠隔講義

①の様子：探究活動の様子

高度な学びを実現する

「アドバンスネットワーク（ALネットワーク）」関係図と類型

✓ネットワークの構築・運営を、教育委員会が主導。→教育委員会主導型

